

令和6年度 第3回 横須賀市文化財専門審議会

議 事 録（抄録）

日 時 令和6年（2024年）12月24日（火）

場 所 深谷やぐら群・円通寺跡（大矢部弾薬庫跡地）

参加者 文化財専門審議会委員 〈敬称略〉

委員長 平田大二 : 地質 神奈川県立生命の星・地球博物館館長

委員 勝山輝男 : 植物 元神奈川県立生命の星・地球博物館主任学芸員

剣持輝久 : 考古・郷土史 赤星直忠博士文化財資料館館長

正垣孝晴 : 地盤工学・土木史 元防衛大学校教授

瀬谷貴之 : 彫刻 神奈川県立金沢文庫主任学芸員

西川武臣 : 古文書・歴史資料 横浜開港資料館館長

水沼淑子 : 建造物 関東学院大学名誉教授

安室知 : 民俗 神奈川大学大学院歴史民俗資料学科研究科

矢島國雄 : 考古 明治大学名誉教授

（欠席）相澤正彦 : 絵画 成城大学名誉教授

事務局：教育委員会教育総務部長 古谷久乃、生涯学習課長 杉山賢一、
同主査 川本真由美、同主任 磯口健太郎、同担当者 佐藤佑吏

内容 〈敬称略〉

1. 開会

2. 視察 深谷やぐら群・円通寺跡（大矢部弾薬庫跡地）

○事務局より遺跡の解説と視察

事務局：中世の地業面はどのように凹凸があるものなのか。

矢島：鎌倉などもそうだが全体的にみると平らだが、一部のみを見ると凹凸が見られる。

丁寧にやるところはその後叩きしめるが、叩きしめていない事例が多い。

事務局：ここを中世の地業として認識して問題はないか。

矢島：問題はない。しかしながら、しっかり叩きしめた面にはなっていない。

安室：大矢部の調査はまだ続くのか。

事務局：今年は終了である。来年以降、調査を実施するかは未定である。

事務局：凝灰岩の判別はどのように行うのか。

平田：基本的には含まれている粒の種類である。例としては、伊豆大島に火山の噴出物があり、あれは島の上にあり、海底に流れているものである。その中に溜まっているものと空中に飛ばされ、再び海に入るものがあるが、いずれも水の中に入り、荒いものが下に溜まり、軽いものが後から溜まる。あとは物質も判断基準となる。黒い物質が入ってくるが、これは火山噴出物である。白い物質が入っているのは、軽石質の噴火じゃないと混入しないものである。凝灰岩質の判断は、物質を見てもらって角ばっているかどうか、水に流されてきているがそんなに円摩されてはおらず、円礫ではなくて角礫状である。

事務局：積み重なっているのか。

平田：ただ降っただけではなく、1回海底に堆積したものがまた地震などで流されている。恐らくこの周辺の地層はそうして出来ている。そういった目でみれば、ここは荒い。もう少し北、逗子のほうへ行くと細かくなっている。

事務局：この遺跡は、黄色い石を並べて丸い。

平田：黄色い色は、軽石質のものが酸化して黄色くなっているものであり、元々は白いものである。近くに同質の厚い地層が存在する可能性がある。

事務局：意識的にこういったものを使っていると考えている。

平田：見栄えを考えた可能性や、硬さなども関係するかもしれない。地層の段階でもう酸化して白くなっており、ずっと前に酸化している事が分かる。その時に造った人の考え方と思われる。どこか周辺に露岩が見つかれば、その可能性はあると思う。やぐらの中にも厚いものが存在していたため、それらが風化して白くなっているだけと思われる。

○円通寺跡・深谷やぐら群の巡見後

平田：今後の保存と利活用の計画はどのようなになっているのか、遺跡の範囲は保存されるのか。

事務局：下の平場は公園として、公園部局が今後整備を進める予定である。遺跡の範囲は保存となる。

平田：保存した後、この土地の利用や公開についてはどうか。

事務局：今後の公園部局の整備の中で検討していくと思われる。

正垣：説明にあった仏像は現在、どこにあるのか。

事務局：清雲寺に移されている。清雲寺には他に板碑・五輪塔がある。清雲寺の住転にかまれたために五輪塔は市指定史跡である。

剣持：心配なのは、風化によって、やぐらの前面が劣化していくことを将来的に考えないといけないことである。

平田：がけ面に対して地層が同方向に傾斜しているので、水が流れてくることを考えるとこの場所は地滑りの危険性も考慮する必要がある。

剣持：あとは植物についてであるが、ここは自衛隊の施設で民間人が立ち入れなかったことから、希少種が残っていたりはするのか。

事務局：博物館の学芸員にも見て貰ったが、下場の平らなところは外来種が入ってきている。そのほかに下場では、ミウラメダカや東京サンショウウオが生息している。

○次回の日程調整実施後、終了